



## 日本音楽教育学会ニュースレター

### 目次

1 日本音楽教育学会第44回大会についてお知らせ	
1-1 大会実行委員会より.....	2
1-2 託児室利用について.....	2
1-3 大会日程.....	4
2 会員の窓	
2-1 歴史的認知音楽学研究会鳥取ツアーに参加して.....	4
2-2 「第24回 音楽の科学研究会」に参加して.....	5
3 海外トピックス	
3-1 The 9th APSMER (AEC-APSMER 2013) 報告.....	6
3-2 The 9th APSMERに参加して.....	7
3-3 The 9th APSMERに参加して.....	8
4 新刊紹介	
4-1 『全国都道府県の歌・市の歌』.....	8
5 報告	
5-1 平成25年度第2回常任理事会報告.....	9
5-2 役員選挙結果報告.....	11
5-3 国際交流委員会から.....	13
5-4 音楽文献目録委員会からのお知らせ.....	13
6 事務局より	
6-1 お知らせ.....	13
編集後記	

### 【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL&FAX：042-381-3562 E-mail：onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 \*郵便物は私書箱へ

開局日：月・水・金

開局時間：9：00～15：00

# 1 日本音楽教育学会第 44 回大会についてお知らせ

## 1-1 大会実行委員会より

①大会申込みは専用サイト（JTB が運営する AMARYS システム）で受け付けております。以下をご参照下さい。学会 HP トップの左にある「イベント案内」からアクセスできます。

☞ <https://amarys-jtb.jp/JMES-Hirosaki44/>

②今回の大会は弘前観光コンベンション協会の助成金を受けています。そのため、参加者の宿泊先及び日数を確認する必要があります。当日受付にてお尋ね致しますので、ご協力お願い致します。

③大会実行委員会企画基調講演者、パネリスト紹介

**基調講演：Weaving First Nations cultural practices into music education in British Columbia（先住民のカルチュラル・プラクティスに学ぶブリティッシュ・コロンビア州の音楽教育）**

アニタ・プレスト氏はカナダのヴィクトリア大学で音楽教育の学士号、カルガリー大学大学院修士課程で音楽（吹奏楽指揮）の修士号を取得し、現在カナダのブリティッシュ・コロンビア大学にて博士論文（音楽教育学）に着手している。彼女はブリティッシュ・コロンビア州のケレメオスという小さなコミュニティで、バンド、合唱、作曲、ミュージック・シアターなどを6年間指導した。彼女の指導するバンドと合唱団はこれまでに英国、キューバ、米国、カナダの4つの州などで演奏している。また2002年にはカナダの首相のための演奏も行った。プレスト氏は、すべての世代の人々によるあらゆる種類の音楽のためのコミュニティ・ベースの音楽祭“The Music Under the ‘K’ Festival”の音楽監督を10年以上つとめた。地方の学校での音楽によるパートナーシップは、ある種の社会関係資本を形成する。彼女はそのようなソーシャル・キャピタルがコミュニティの活性化、音楽教育の価値の概念にどのように影響するかについて研究している。プレスト氏は SSHRC (Social Sciences and Humanities Research Council) の受賞者である。



Anita Prest (Ph. D. Candidate, University of British Columbia)



**シンポジウム：Weaving Non-European sound practices into music education in Japan（世界のサウンド・プラクティスに学ぶ音楽教育）**

生態人類学者の杉山祐子氏は、東京都新宿区生まれ。筑波大学大学院歴史・人類学研究科単位取得退学、京都大学にて博士号（地域研究）を取得した。アフリカサバンナ疎開林に住む農耕民社会を対象として、ザンビアやタンザニアの地方農村に住み込み調査を続けてきた。在来農法、ローカルなイノベーション、近代化とジェンダーなどを中心に研究している。

杉山祐子（弘前大学人文学部教授）

④院生フォーラムについて

修士課程・博士課程の院生による「院生フォーラム」発表者の募集（ポスター・セッション及びディスカッション）を受け付けております。申込み締め切りは9月6日（金）です。

☞ 申込、問い合わせ先：大坪千佳 [tikax322@yahoo.co.jp](mailto:tikax322@yahoo.co.jp)

☞ 大会 website：<http://jmeshirosaki.wkeya.com/>

## 1-2 託児室利用について

弘前大学で開催される日本音楽教育学会第44回大会では、子育てを行っている研究者が安心

して学会に参加できるように託児室を開設します。女性研究者を中心に、学会参加の促進を進めている弘前大学男女共同参画推進室の託児利用支援制度により、利用料金は無料となります。ご利用にあたっては、以下の規定をご理解のうえ、別途申込用紙（「学会託児室利用申込書」）に必要事項をご記入のうえ、9月20日（金）までに託児室担当者（武内）までお申し込みください。

### 〈学会託児室利用の規定〉

（一部抜粋：利用を申し込む方は大会 HP から全文の確認をお願いします）

#### 1. 利用対象

生後3ヶ月から小学児童まで。利用は学会参加者のお子さんに限ります。

#### 2. 託児委託先（託児担当者）

特定非営利活動法人 弘前こどもコミュニティ・ピーぷる

託児担当者は共同募金配分金事業「親子のいきいきひろばスタッフ育成・実践プラン」受講修了者です。

#### 3. 託児場所

託児室は学会会場内に設け、安全に留意した設備を用意します。臨時であるため、設備に限界があることをご理解ください。セキュリティの関係上、託児室の場所は申し込み者のみにお知らせいたします。

#### 4. 託児時間


利用可能時間は、学会大会のプログラムの開始時刻の30分前から、最終終了予定時刻後30分とします。

#### 5. 利用申し込み・料金

託児利用にあたっては、事前申し込みが必要です。当日の申し込みはできませんのでご了承ください。また、託児場所の関係で利用は各日先着5名までとさせていただきます。申し込み期間内に、所定の書式（「学会託児室利用申込書」）を使用し、学会託児室担当までE-mail または FAX にてお申し込み下さい（委託先に直接お申し込みなさらぬよう、ご注意ください）。

所定の書式は、日本音楽教育学会第44回大会ホームページより取得してください。

**日本音楽教育学会第44回大会ホームページはこちら**

 <http://jmeshirosaki.wkeya.com/index.html>

#### 6. 当日の利用にあたって

- (1) ご利用にあたり、当日のお子さんの健康状態を事前に「託児事前調査カード」に記入のうえ、学会託児室受付にご提出いただきます。お子さんの体調が悪い場合は託児をご遠慮いただきます。
- (2) 着替え、おむつ、おやつ、飲物については申込者（保護者）がご持参ください。
- (3) 持ち物、着替え等には必ず名前を書き、ビニール袋等にまとめてください。
- (4) 昼食は持参あるいは外部にて、申込者（保護者）とともにおとりください。
- (5) 玩具、絵本を準備いたしますが、お子さんの好きな絵本等がありましたらご持参ください。他のお子さんに怪我を与える心配のあるおもちゃの持ち込み（ピストル、剣など）はご遠慮ください。
- (6) 事故等のないように最善の注意を払いますが、不測の事態に対しては、申込者が迅速に対応することを前提とします。そのため、予め申込者の緊急連絡先（携帯電話番号）を必ず記入してください。
- (7) 託児中の万一の事故に対しては、委託先が加入する保険の範囲内で保障されますが、日本音楽教育学会第44回大会事務局および弘前大学男女共同参画推進室では責任を負いません。

#### 7. 利用申し込み先・締め切り

申し込み先：日本音楽教育学会第44回大会実行委員会 託児室担当者（武内）

E-mail : hiloakit@cc.hirosaki-u.ac.jp FAX : 0172-39-3456

## 1-3 大会日程

10月12日(土)

( ) の中は会場を示す。

9:00	9:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:45	18:00	19:00	21:00
受付・研究発表の打ち合わせ	研究発表 I A(1階 大教室) B(202) C(203) D(205) E(2階 大教室) F(302) G(303) H(305)	昼食	共同企画 I (202) 共同企画 II (203) 共同企画 III (1階 大教室) プロジェクト研究 I (2階 大教室)		ご挨拶 基調講演 シンポジウム  (みちのくホール)		総会	懇親会 (岩木ホール)	
	11:30~13:30 院生フォーラム (402, 404, 405, 406)								

10月13日(日)

8:30	9:00	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45
受付・研究発表の打ち合わせ	研究発表 II I(1階 大教室) J(202) K(203) L(205) M(2階 大教室) N(302) O(303) P(305)	昼食	共同企画 IV (202) 共同企画 V (203) 共同企画 VI (302) プロジェクト研究 II (2階 大教室)		共同企画 VII (1階 大教室) 共同企画 VIII (202) 共同企画 IX (203) 共同企画 X (音楽ホール)	
	<p>* 研究発表の開始時刻は、 12日(土)は9:30 13日(日)は9:00 です。</p> <p>* 研究発表の打ち合わせは、 12日(土)は9:00から 13日(日)は8:30から 行います。 研究発表者と司会者は 各会場に集合して下さい。</p>					

## 2 会員の窓

### 2-1 歴史的認知音楽学研究会鳥取ツアーに参加して

鳥取大学 鈴木 慎一郎

2013年6月1日(土)・2日(日)、「鳥取ツアー」と呼ばれる研究会が鳥取の地で行われました。参加者は10名。初日にはまず、鳥取市内にある「わらべ館」に出かけ、岡野貞一、田村虎蔵、永井幸次といった鳥取の代表的な音楽教育家の展示等を見学しました。幸いにも徳丸吉彦氏の「音楽学と物理学：明治の知の先駆者・村岡範為馳」の講演会があり、鳥取県出身であり、東京音楽学校第二代校長や京都大学教授の経歴のある村岡範為馳(1853-1929)について学びました。その後、場所を県民文化会館の会議室に移動し、有本真紀氏の著書である『卒業式の歴史学』(講談社、2013)の検討会となり、事前に分担した章ごとに内容を協議しました。「感動と涙との結びつきがみられる卒業式は日本に特有の学校文化である」との記述に対し、諸外国の卒業式の実態を知りたい。卒業式に歌われた多くの唱歌があったにもかかわらず、どうして《蛍の光》と《仰げば尊し》が戦後にも継承されたのか。何か音楽的な魅力があったのか。声の近代化とは…、等々、議論が盛り上がったところで、19時近くとなり、退室しました。夕食の場でもその余韻は続き、鳥取の新鮮な魚介類とお酒をいただきながら、意見を交わしました。

翌日は、鳥取市内の河原にある有本氏の実家へうかがいました。有本氏のお父様の有本<sup>あきひと</sup>瞳日月氏（1924-2003）は、1943（昭和 18）年 9 月、鳥取師範学校本科を卒業後、鳥取大学附属小学校教諭等を経て、鳥取県内の小学校の校長を務められ、著作、講演、絵画・表具制作、指揮・音楽指導など、多彩な分野で活躍された方です。現在はだれも住んでいない一軒家ですが、手入れは行き届き、瞳日月氏ご自身で描かれた襖、絵画等をはじめとした美術作品が至る処に散りばめられています。到着後、有本氏の案内で見学させていただきましたが、どこを眺めても素敵な作品がみられ、思わず「おー」という感嘆な声があちらこちらで聞こえてきました。



作品鑑賞後、瞳日月氏の鳥取師範学校の卒業論文である「和音ヲ中心トスル聴覚訓練ノ系統的研究」について検討しました。「第一章 諸言、第二章 聴覚訓練と和音、第三章 和音訓練の基礎理論、第四章 和音感訓練に於ける音認識の原理、第五章 和音訓練の系統的的研究、第六章 教生期間の体験と考察、第七章 結語」から構成され、当時の音感教育や、国民学校、師範学校の動向を踏まえた上で、協議しました。瞳日月氏の同僚であった長石昭太郎氏の証言も加わり、鳥取師範学校において瞳日月氏は、原田豊氏、小泉恵氏から音楽指導を受けたことが分かりました。また、卒業論文に書かれている聴覚訓練の方法は、国民学校芸能科音楽教師用指導書や佐藤吉五郎の影響を受けているのではないかと推察しました。

当初の計画では、午後は観光を予定していましたが、議論が白熱し、昼食後も有本邸で「聴覚訓練において和音を重要視するのは有効か」「加音差音現象とは何か」「予期心象、自由心象とは…」等準備した資料では解決できない点も残り、今後の課題となりました。さらに、声楽の岡田孝氏・宮田知絵氏とピアノの村尾忠廣氏による《卒業式の歌》（山田源一郎作曲、山田美妙斉作歌、村尾忠廣伴奏編曲）等の演奏が加わり、音楽表現を交えた有意義な研究会となりました。

## 2-2 「第 24 回 音楽の科学研究会」に参加して

信州大学 齊藤 忠彦

平成 25 年 6 月 9 日（日）、武庫川女子大学にて「第 24 回 音楽の科学研究会」が開催されました。音楽の科学的研究に関心をもたれている方が年に数回集り、大阪近郊の大学等を会場として開催されている研究会です。学会ではないため、誰でも気軽に参加することができ、参加費も無料です。私も数年前から日程が合うときは参加しています。同研究会の第一印象ですが、研究発表の内容が濃く、発表後の質疑応答の内容も濃いです。時には、かなり厳しい質問もあるのですが、発表されている研究者を育てるためというあたたかさを感じます。お互いに高め合おうという雰囲気があります。休憩時には、ちょっとしたお菓子と飲み物があり、研究会終了後には懇親会が企画されるなど、とてもアットホームな研究会です。現在は関西方面の大学等の関係者が多いため、大阪近郊で開催されています。私の場合は、長野から大阪までですと電車で 4 時間以上かかるのですが、それだけの時間をかけても行く価値がある研究会だと思います。今回の研究会では、8 つの研究発表が行われました。右の写真は、正田悠さん（同志社大学大学院文化情報学研究科・日本学術振興会特別研究員）が発表している場面で、研究テーマは「ピアノ演奏者の感情的解釈の鑑賞者への伝達 ―コンサート場面と音のみ聴取場面の比較―」でした。



ところで、私がこの研究会に参加するきっかけをつくってくださったのは、大阪大学大学院



教授の木下博先生です。木下先生は同研究会の立ち上げメンバーであり、現在は事務局世話人代表をされています。木下先生から同研究会についての詳しい情報をいただきましたので、以下に紹介させていただきます。音楽の科学的研究に関心がある方は、次回からの参加をご検討ください。

音楽の科学の研究会は、「音楽の科学的研究の進歩と発展に寄与すること」を目的として平成18年に設立された研究会です。世話人代表者は武庫川女子大の益子務教授で現在の事務局の世話人代表が木下博、事務係が小幡哲史です。学会ではなく、有志による研究会ですので、会費は徴取しておりません。本研究会の目的にそった会を年3回から4回、複数の研究機関で実施し、当該の機関に所属する研究者が世話人となって頂いています。研究会への参加は無料です。毎回の出席者は、小規模で実施する場合には15名程度ですが、大規模で実施する場合には100名を超える場合もありました。ホームページ(ongakunokagaku@yahoo.co.jp)をご覧ください。これまでの24回の研究会の開催を世話する担当者として関西の大学(武庫川女子大,大阪大学,相愛大学,龍谷大学,摂南大学,大阪工業大学,近畿大学,京都芸術大学,大阪芸術大学)と病院,関西リハビリテーション病院,西播磨リハビリテーションセンターなどの教員,医師,音楽療法士さん,学生さんに協力して頂きました。

#### <音楽の科学の研究会の事務局>

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町1-17 大阪大学大学院 医学系研究科 予防環境医学系 健康スポーツ科学講座 運動制御学教室内 (E-mail: s-obata@moted.hss.osaka-u.ac.jp)

### 3 海外トピックス

#### 3-1 The 9th APSMER (AEG-APSMER 2013) 報告

明治学院大学 水戸 博道

第9回 APSMER (アジア太平洋音楽教育シンポジウム) が、7月17-18日シンガポールにて開催された。今回の APSMER は、シンガポールの Arts Education Conference との初めての共催として開催され、会議では音楽だけでなく、美術、演劇、舞踏などに関する研究発表やワークショップもおこなわれた。今回の会議は、シンガポールの教育省がバックアップしていたこともあって、地元の小中高の教員を含む1000人以上の参加者が集い、中学生の合唱やダンスなどによる華々しいオープニングセレモニーによって開幕した。

キーノート・スピーチは、すべて初日にかためられていたが、中でも、シンガポール出身のポピュラー音楽家の Dick Lee の講演は、通常の研究者のキーノートとは赴きの異なる大変興味深いものであった。講演では、Dick Lee が“シンガポール人”のポピュラー音楽家としてどのように文化的アイデンティティを確立していったのかを、自分史をひもとく形で説明された。シンガポールという文化的アイデンティティがなかなか見えにくい国において、Dick Lee がどのように苦悩、模索してきたかが、巧みな話術で語られ、会場に集ったさまざまな国の音楽教育者たちの共感を誘った。

研究発表の動向としては、“Community”や“Student-Centered”というテーマの発表が多くおこなわれていたのが特徴的だった。私は、Student-Centered というキーワードを中心に研究発表をまわったが、残念ながら興味深い研究は少なかった。私が参加した範囲では、どの研究も、生徒中心の実践を、その課題と可能性を深く検討した上で提案したものではなく、日本の実践から比べると随分と遅れているようにも見えた。2年に1回の国際学会に参加すると、新しい研究テーマが一気に浮かび上がってくることがある。こうした研究動向に乗り遅れないことは大事であるが、一種の流行のような形で一つのテーマに研究発表が集中し、それぞれの研究に独自性がみえてこないのも、学術会議としては多いに問題があると思った。

ところで、隔年で行われる APSMER は今回が第 9 回なので、初回が行われたのは 16 年前の 1997 年である。この会議の設立者の一人である Chair の G. McPherson 氏のオープニングスピーチでは、設立の功労者である村尾氏の熱意と努力が熱く語られ、この会議の持つアジアの研究者への意義が強調された。McPherson 氏の言う通り、国際会議での発表の機会が簡単には得られない日本の研究者にとって、APSMER の持つ意味は特に重い。今回も、APSMER 開設当時から参加しつづけている日本のメンバーが、貴重な発表を行い、我が国の音楽教育研究の国際的な存在感を着実に示していた。しかし、他のアジア諸国では、院生を含めた若手研究者がこぞって発表してくる一方で、我が国では、なかなか新規に発表者が増えていかないのが実情である。このところ、開催が 7 月になり、しかも、日本の大学事情では学期中の海外出張がきわめて難しくなったことも、大きな原因ではあると思う。しかし、我が国には、海外に誇れる若手の音楽教育研究が多数あることや、アジアの研究者同士で検討すべき研究課題も多く存在することを考えると、もっともっと多くの日本の研究が、この APSMER の場で発信されることが望まれる。

次回は、香港での開催である。開催国の事情などから、8 月開催は無理にしても、7 月下旬の週末に開催を検討してもらうように、理事会に強く要請しておいた。

### 3-2 The 9th APSMERに参加して

弘前大学大学院生 大坪 千佳

7 月 17 日から 19 日にかけてシンガポールで開催された第 9 回 APSMER に参加し、〈Of Improvisation and Listening〉というタイトルのペーパーを発表した。今回、初めての国際学会、初めての英語での個人発表ということもあり、大会参加の準備段階から多くのことを学ぶと共に、貴重な経験が出来たと感じている。

フルペーパーの提出や大会参加の登録、現地スタッフとのメールのやりとりなど、当たり前だが、全て「英語で」という接続詞がついて回る。中でも、発表原稿やプレゼン資料の作成については、日本語と英語での表現の違いにとっても苦労した。日本語の文章をそのまま英語に当てはめても外国人には伝わらない、という初歩的なことから学び、何度も「意味がわからない」と言われては手直しする、といった繰り返しだった。

私の研究は Derek Bailey による Non idiomatic improvisation を中心とした即興演奏と、聴取の中の即興性から、音楽と言葉、そして身体の関係性を探ることを目的としている。質疑では、香港並びにシンガポールのジャズ研究者から貴重な示唆を得ることができた（なにより英語が通じたことに安心した）。また、多様な研究課題や未知なるテーマを扱っている世界中の研究者の方々と交流することもできた。その中で、自分の研究の現時点での立ち位置を俯瞰できたことも大きな収穫だ。今回、「英語で発表した」という達成感だけを持ち帰って来てしまったように感じる。今後、このような発表のチャンスに巡り会えたときに、自分の主張がはっきり伝えられて、他の人から頂いた助言や感想を十分に吸収できるよう、日々、自分の研究を英語と日本語両方の視点から深めていきたい。

最後に、APSMER 参加に当たり、このような貴重な機会を与えてくださった弘前大学の今田匡彦先生、並びに、様々な助言や御指導くださった坪能由紀子先生をはじめとする諸先生方、今田研究室のゼミ生の皆さんに改めて感謝したい。



(↑発表の様子)

今回の国際学会はシンガポールのウッドランド通りに位置するリパブリック・ポリテクニクで行われた。行くまでは不安だらけだったが、実際に行ってみると大変有意義な時間を過ごすことができた。学会1日目は、午前オープン・パフォーマンスや基調講演、午後ペーパー発表やワークショップ。2日目は午前、午後ともにペーパー発表やワークショップが行われていた。

私は今回、指導教員の今田匡彦先生との共同研究による〈An Application of the Alexander Technique to Music Education in Japan〉というペーパーを発表した。日本の音楽教育でアレクサンダー・テクニクがどのように適用されているべきか、私自身のマリンバ演奏を通して検証する、といった内容だった。マリンバを演奏する際の腕の使い方や指導者の演奏中の姿勢を提示しつつ、指導者とのレッスンでの会話から身体をどのように使うかを読み取り、アレクサンダー・テクニクでのさまざまな概念を応用させて考察した。



(↑発表の様子)

質疑では台湾の研究者 Mimi Chen 先生から「学校現場でアレクサンダー・テクニクを子どもに教えるには、どうしたら良いのか」という質問があった。また発表後は小川容子先生、嶋田由美先生からさまざまなアドバイスを頂くことができた。今回の貴重な経験や先生方のアドバイスは今後の私の研究の励みになり、より一層研鑽を積まなければと思った。最後に、この場をお借りして、今田先生、坪能由紀子先生、ならびにお世話になった日本の先生方に感謝を述べたい。

## 4 新刊紹介

### 4-1 『全国都道府県の歌・市の歌』

信州大学 中山 裕一郎（編著）



全国の多くの都道府県には都道府県民歌が存在する。一方で、手続きを踏んで制定されたそれらの歌を持たない自治体も存在する。広島などわずから県と少数ではあるが、佐賀県のように3つの県民歌を有する自治体もある。

都道府県民歌の多くは、戦後になって制定されている。GHQの指示であったり、国民体育大会や記念行事の開催をきっかけに制定した自治体が多い。制定目的のトップに挙げられるのが、各都道府県民意識や〈故郷〉意識の高揚である。

では、都道府県民歌は、制定した自治体の意図通りに、認知され各都道府県民意識や〈故郷〉意識の高揚に何らかの役割を果たしているのだろうか？そもそも、私たちは、出身地や日々生活する場としての自治体の歌を知っているだろうか？

本書は、各地方自治体宛に依頼した都道府県民歌に関する質問票の回答をもとに、都道府県民歌及び市の歌を通して、日本人の故郷への意識、日本人と歌、行政サイドと都道府県民或いは市民との歌をめぐっての関係について考えようとするものである。歌詞や楽譜などが主であり、資料としての役割や価値を有するはずである。

本書の構成は下記の通りである。

日本人の〈故郷（ふるさと）〉意識と都道府県民の歌・市の歌



- 一、唱歌の中に描かれた＜故郷＞
- 二、長野県歌「信濃の国」～「県民歌」の原点
- 三、都道府県の歌制定の時期と理由～制定を奨励した GHQ の狙いは？
- 四、市（区）の歌の制定の傾向
- 五、新しい時代の歌を～行政からの問題提起 東京都議会でのエピソード
- 六、心の＜故郷＞の歌へ

\*以下、北海道から熊本県までの都道府県の歌計 53 曲と市の歌計 408 曲について、制定時期、制定の理由、どのような時に歌われているかなどのアンケートの結果と、歌詞及び楽譜について収録されている。

東京堂出版，2012 年 12 月 10 日刊行，5,600 円＋税  
全 482 頁（本文及び歌詞 431 頁＋楽譜資料 51 頁）  
ISBN；978-4-490-20803-0

## 5 報告

### 5-1 平成 25 年度第 2 回常任理事会報告

日時：平成 25 年 7 月 21 日（日）14:00～16:30

場所：立教大学マキムホール 10 階第一会議室

出席者：加藤，有本，今川，伊野，今田，小川，北山，島崎，佐野，寺田，奥（記録）

有本副会長の挨拶に続き，今川事務局長から常任理事会で審議すべき事項の確認があった。

#### 【会務報告】

今川事務局長より平成 25 年 5 月 19 日～7 月 20 日の間の会務報告がなされた。

5 月 19 日	平成 25 年度第 1 回編集委員会（立教大学） 平成 25 年度第 1 回常任理事会・理事会（立教大学）
5 月 26 日	平成 25 年度第 1 回倫理綱領作成委員会（聖心女子大学）
6 月 15 日	第 21 期会長・理事選挙関係書類発送
6 月 23 日	第 44 回大会発表申込締め切り
7 月 1 日	『音楽教育学』第 43-1 号 ニュースレター第 52 号 発送
7 月 6 日	第 21 期会長・理事選挙開票（事務局）

#### 【審議事項】

##### 1 平成 25 年度補正予算，平成 26 年度予算について

島崎理事から資料に基づき「補正予算」について説明があり，了承された。内容は次の通りである。「雑収入」の科目名は「その他」とし，その中に「大会本部運営費（大会実行委員会経費）返金」と「例会運営費返金」の 2 項目を設けた。収入の「正会員会費」は 6 月末日の実数に基づいて「予算案」の金額を補正した。大会に関係する「大会本部経費返金」は「その他」に含めた。なお，科目名「大会本部経費」は「大会実行委員会経費」に名称変更し，「覚書」における「大会会計 2-6 大会運営準備金」については「大会運営の準備金として，学会本部は大会実行委員会あてに事前に 70 万円を振り込む（大会実行委員会経費）。」とすることが，了承された。「学会賞」は該当がなかったので支出はなし。ただし科目名は削除せず，「0」と記入する。「事務局員保険費」は局員減により減額，それに応じて「予備費」が増額となっている。「26 年度予算（案）」については，会員数の増によって全体的に 14 万円増えている。増額分は「予備費」に投入した。あわせて，来年度予算に，『会員名簿』作成経費を「Ⅲ学会基金」に含んでいない点を申し送る必要があることが確認された。

## 2 第44回大会について（報告も含む）

### (1) 大会実行委員会から

主として寺田委員から次の報告があり、了承された。

プログラムの表紙他、記事部分について確認作業をした。広告とブースの受付状況について、各種資料に基づき報告があった（1頁4万円，1/2頁2万円，ブース2万円）。実行委員の機動力不足を補うために学生スタッフを強化する方針である。弘前大学男女参画協同委員会との共催で会場内に託児スペースの設置の予定である。ブースについては教育学部に設置料を支払って、実行委員会側で運営する。

### (2) 企画担当理事から

寺田委員から資料に基づき、研究発表、共同企画の申込件数は会場内に収まっていること、ほぼ例年通りの日程で実行することが報告された。あわせて、申込み締め切り後の日程変更希望には応じないことと、次回の申込みには全日程参加を前提とする文言表現を工夫することが確認された。さらに、「プロジェクト研究2 社会へのまなざし，社会からのまなざし」についてシンポジストとして志村洋子，坪能由紀子，寺田巳保子の3会員に依頼したこと，また内容について資料に基づき説明があり，承認された。「プロジェクト研究1 音楽教育学における『記録』」に関しては，シンポジストの応募はなかったこと，パネリストとして高見仁志，長井覚子，杉江淑子の3会員に依頼したこと等が資料に基づいて報告され，了承された。

### (3) 事務局から

賛助会員の広告主体の正式名称を確認すること，「研究発表者へのご案内」の，発表の打合せ時間部分には出席をとる旨記載すること，「発表規定」作成を次期理事会への申し送りに含めること，「研究発表者へのご案内」では「研究発表者」と「共同企画」が混在しているので，項目順を入れ替え整理することなどが報告され，了承された。

## 3 会則改訂について

継続審議となっていた会則第2条の改訂について，3種類の修正案が北山理事から提出された。キーワード，理念，文体などさまざまな視点から議論が行われた結果，以下の文言に決定した。

「本学会は，音楽教育に関する会員相互の研究協議を通して，音楽教育研究の振興と音楽教育活動の発展に貢献することを目的とする。」

## 4 倫理綱領作成委員会から

資料に基づき，今川事務局長から「綱領案」の説明と，倫理ガイドブック刊行について音楽之友社との交渉は不調であったため，学会誌の別冊としてサンプロセスから発行，学会員には無料配付することが報告された。

## 5 投稿規定改定について

年間4回の定期刊行物の編集作業について伊野理事から資料に基づき作業日程の説明がなされ，「『音楽教育学』投稿規定」と「『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定」を変更することとなった。

## 6 新公益法人法への対応について

資料に基づき，北山理事（将来構想WG）から現在の学会規模では法人化は時期尚早であるとの説明があり，現時点では法人化せず，任意団体を維持するという将来構想WGの方針が了承された。

## 7 新入会員及び退会者について

今川事務局長より資料に基づき報告があり，了承された。

## 【報告事項】

### 1 第21期会長・理事選挙結果について

選挙管理委員会から提出された「第21期日本音楽教育学会会長選挙結果報告」および「第21期日本音楽教育学会理事選挙結果報告」に基づき，今川事務局長から報告があり，承認された。

## 2 立教ゼミナールについて

平成 25 年 8 月 24 日（土）～25 日（日）に立教大学池袋キャンパスで開催される 2 つの内容について、A については佐野理事から、B については今田理事から進捗状況の報告があった。

## 3 各委員会報告

- (1) 編集委員会 伊野編集委員より『音楽教育学』と『ジャーナル』の応募状況、編集の進捗状況が報告された。「投稿規定」の「締め切り設定案」2 案について説明があり、第一案が了承された。
- (2) 音楽文献目録委員会 今川事務局長より文献目録委員会から学会宛に届いた依頼文書『音楽文献目録』の Web 検索システムに対する個人寄付のお願いについて資料に基づき説明があり、検討の上、対応をすることにした。

## 4 ニュースレターについて

小川理事より、原稿締め切りが 8 月 1 日であることの確認がなされた。

## 5 事務局からのお知らせ

大会参加申込みに関して、プログラム発送時に Web 申込みを徹底することと、今後も継続して、JTB (AMARYS システム) に依頼することを前提に改善点・反省点などを話し合った。

## 6 その他

<次回会議の予定>

第 3 回常任理事会、第 2 回理事会 10 月 11 日（金）時間未定 \*弘前大学

◇正会員 新入会員（平成 25 年 5 月 19 日理事会以降）：31 名

【7 月 13 日現在 正会員数 1521 名 学生会員数 1 名 特別会員数 3 名】

## 5-2 役員選挙結果報告

選挙管理委員会委員長 中嶋 俊夫

第 21 期日本音楽教育学会会長選挙の結果を下記の通り報告します。

有権者数：1,368（在外会員 3 名を含む）

当選者（得票数）	次点者（得票数）	投票総数（票）	投票率（%）
小川 容子（66）	坪能 由紀子（38）	363	26.5

投票総数 363 票（内 白票 8，無効 0）

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長 中嶋 俊夫

副委員長 寺田 己保子

委員 鈴木 慎一朗

〃 宮本 憲二

〃 村上 康子

第21期日本音楽教育学会理事選挙の結果を下記の通り報告します。

有権者数：1,365 (在外会員を含まない)

地区	当選者		次点者	投票数/有権者数	投票率 (%)
北海道	尾藤弥生		菅野道夫	24/51	47.1
東北	小畑千尋		降矢美彌子	20/76	26.3
関東	加藤富美子	佐野 靖	坪能由紀子	141/574	24.6
	本多佐保美	水戸博道			
	中嶋俊夫	中地雅之			
	嶋田由美	木村充子			
北陸	伊野義博		篠原秀夫	16/66	24.2
			後藤 丹		
東海	新山王政和	北山敦康	志民一成	36/126	28.6
近畿	杉江淑子	村尾忠廣	菅 道子	45/183	24.6
	安田 寛				
中国四国	三村真弓	権藤敦子※	藤井浩基※	44/162	27.2
九州	福井昭史	松本 正	木村次宏	36/127	28.3

※中国四国地区は2位が2名同点であったため、会長・理事選挙実施要領 II 6 (3) に基づき、選挙管理委員会において厳正な抽選を行い、当選者を決定した。

投票総数 362票 (内 白票 8, 無効 0) 全体の投票率 26.5%

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長 中嶋俊夫

副委員長 寺田己保子

委員 鈴木慎一郎

〃 宮本憲二

〃 村上康子

上記の結果をもちまして、第21期会長・理事選挙が滞りなく実施されましたことをご報告します。会員の皆様にはご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

投票率につきましては第19期(33.8%)、第20期(27.5%)、今期(26.5%)と下降の傾向にあり、来期に向けて、皆様のさらなるご支援をお寄せいただきますようよろしくお願い致します。

## 5-3 国際交流委員会から

国際交流委員会委員長 今田 匡彦

### ISME the 31<sup>st</sup> World Conference in Porto Alegre in Brazil

ISME 第 31 回世界大会が、2014 年 7 月 20 日から 25 日にかけてブラジル南部の都市ポルト・アレグレで開催されます。“Listening to the musical diversity of the world”をテーマとする今回は、ラテン・アメリカで開催される最初の大会となります。また、大会にさきがけ各コミッション・セミナーも開催されます。詳細については、以下のサイトをご参照下さい。

ISME 第 31 回世界大会ホームページはこちら

☞ <http://www.isme.org/presidents-welcome>

## 5-4 音楽文献目録委員会からのお知らせ

音楽文献目録委員会 木間 英子

音楽文献目録委員会は、RILM(音楽関連の学術的著作の書誌目録をつくる国際的ネットワーク組織)の日本支部で、国内の委員会は、日本音楽教育学会を含む音楽関連の学術団体 5 団体によって運営されています。運営資金は 5 団体が分担しており、各団体から選出された委員が文献を選定し、年 1 回『音楽文献目録』を発行しています。音楽文献目録委員会では、この度、発足 40 周年の記念事業として、第 1 号から 2013 年発刊の第 40 号までに掲載された全文献を Web 上で検索できる「Web 検索システム」を構築することとなりました。この事業推進のため、個人寄付を募っておりますことを、この場をお借りして、日本音楽教育学会の皆様にお知らせいたします。なお、ご関心がおありの方は、音楽文献目録委員会事務局まで直接お問い合わせいただきたく、よろしくお願いいたします。

問い合わせ先：音楽文献目録委員会事務局

電話&FAX 03-3991-3018

E-mail office@rilm.jp

## 6 事務局より

### 6-1 お知らせ

#### ■日本音楽教育学会第 44 回大会（弘前大会）の参加申し込みについて

今年度の参加申込は原則としてすべて Web 申込となります。大会参加申込専用ホームページ（AMARYS システム）からお申込ください。

参加申し込みページはこちら

☞ <https://amarys-jtb.jp/JMES-Hirosaki44/>

1. 事前振込による大会参加費は以下の通りです。大会当日に現金で支払われる場合は（ ）内の金額となります。

正会員参加費	:	4,000 円（当日払いの場合 4,500 円）
学生会員（学部生に限る）	:	2,000 円（当日払いの場合 2,500 円）
懇親会費	:	5,000 円



※なお、振込み期日は9月30日(月)です。期日を過ぎてのお振込みはできません。

※会員以外の方(臨時会員)も上記申込ページから参加申し込みできます。当日の参加申し込みもできます(事前振込も当日払いも参加費は同額です)。

※Webでのお申込ができない方は、事務局へお問い合わせください。

2. 総会の出欠について、同封のハガキにご記入の上、9月30日必着でご投函ください。  
大会、総会に欠席される方は、必ず委任状に必要事項をご記入の上お送りくださいますようお願いいたします。

◎大会の最新情報は大会ホームページに掲載しております。

☛ <http://jmeshirosaki.wkeya.com/>

#### ■メールアドレスの登録をお願いします。

年度会費納入の確認作業を事務局で行なうと、会員のお手元に確認メールが自動送信されます。メールアドレスが未登録の方、アドレス登録済みで会費納入したのに確認メールが来ないという方は、事務局にご一報くださるようお願いいたします。なお、事務局開局時間の関係や業務の多寡によって、会費納入後確認メール送信まで2週間程度要することもありますのでご了承ください。

■「音楽教育学」「音楽教育実践ジャーナル」のバックナンバーを販売しております。今年度限定のお得なセット販売も行なっております。詳しくはホームページをご覧ください。

#### ◆事務局開局時間

月・水・金 9:00~15:00

ただし、8月12日~16日 閉局期間となります。

この間のご用件はE-mailにてお願いいたします。

☛ [onkyoiku@remus.dti.ne.jp](mailto:onkyoiku@remus.dti.ne.jp)



#### 【編集後記】

民謡の尺八と唄の稽古に通うようになって、もうすぐ2年になります。最近では三味線にも手を出しています。きっかけは、3年前に札幌で開催された、本学会主催の江差追分ワークショップでした。近江八声先生の素晴らしい唄と、尺八一本で伴奏するカッコ良さに刺激を受け、民謡教室の門を叩きました。そんなきっかけを与えて下さった素敵な企画に感謝しています。

勤務校の研究室が、ちょうど附属高校の対面にあります。聴こえてくるのは、合唱コンクールの練習、音楽の授業、そして夏休みは吹奏楽部の熱心な練習の様子。パート練習が全体合奏になったときには、「ああ！そういう音楽になるのか！」と、つい嬉しくなってしまいます。会員の皆様の充実した夏休みの様子も、ぜひニュースレターにお寄せください。

志民一成・長井覚子 記